

IBM IoT Continuous Engineering on Cloud

および

IBM Collaborative Lifecycle Management on Cloud

ご利用条件 (以下「ToU」といいます。) は、本「IBM ご利用条件 – SaaS 特定オファリング条件」 (以下「SaaS 特定オファリング条件」といいます。)、および以下の Web サイトでご覧いただける「IBM ご利用条件 – 一般条件」 (以下「一般条件」といいます。) で構成されています (URL:<http://www.ibm.com/software/sla/sladb.nsf/sla/tou-general-terms/>)。

「SaaS 特定オファリング条件」と「一般条件」の規定に矛盾がある場合、「SaaS 特定オファリング条件」が優先して適用されるものとします。「IBM SaaS」の注文、そのアクセスまたは利用により、お客様は「ToU」に同意したものとみなされます。

「ToU」には、「IBM パスポート・アドバンテージのご契約条件」、「IBM パスポート・アドバンテージ・エクスペリエンスのご契約条件」、または「IBM SaaS 特定オファリングのご契約条件」のうち該当する契約条件 (以下「本契約」といいます。) が適用され、これらと「ToU」を合わせて完全な合意として成立します。

1. IBM SaaS

以下の「IBM SaaS」オファリングに、これらの「SaaS 特定オファリング条件」が適用されます。

- IBM Rational Quality Manager on Cloud
- IBM Team Concert on Cloud
- IBM DOORS Next Generation on Cloud
- IBM Engineering Lifecycle Manager on Cloud
- IBM IoT Continuous Engineering on Cloud
- IBM Collaborative Lifecycle Management on Cloud

2. 課金単位

「IBM SaaS」は、「取引文書」で規定された以下の課金単位のいずれかに従って販売されます。

- 「許可ユーザー」は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。お客様は、直接または間接を問わず何らかの方法により (例えば、多重化プログラム、デバイスまたはアプリケーション・サーバーを経由して) 「IBM SaaS」へのアクセスを与えられた「許可ユーザー」ごとに、個別に専用の使用許諾を取得しなければならないものとします。お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「IBM SaaS」へのアクセス権限が付与される「許可ユーザー」の数をカバーするのに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。
- 「ギガバイト」は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「ギガバイト」とは、2 の 30 乗バイトのデータとして定義されます (1,073,741,824 バイト)。お客様は、お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「IBM SaaS」が処理する「ギガバイト」の総数をカバーするのに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。

3. 料金および課金

「IBM SaaS」に対する料金は、「取引文書」に記載されます。

3.1 1 か月に満たない期間の料金

「取引文書」に記載された 1 か月に満たない期間の料金は、按分にて算定される場合があります。

3.2 超過料金

課金期間中のお客様の「IBM SaaS」の実際の利用が、「PoE」に記載される使用許諾範囲を超える場合には、お客様は、「取引文書」の規定に従い、その超過分について請求されます。

3.3 従量課金制

お客様は、「IBM SaaS」 オファリングに含まれるストレージ割り当てを超える場合、100 GB 単位で請求されます。

4. 「IBM SaaS」の「サブスクリプション期間」の更新オプション

「IBM SaaS」の期間は、「PoE」に記述されるとおり、「IBM SaaS」へのお客様のアクセスについて、IBM がお客様に通知した日に開始します。「PoE」には、「IBM SaaS」が自動的に更新されるか、継続利用ベースで続行されるか、期間満了時に終了するかが記載されます。

自動更新の場合には、お客様が期間満了日の少なくとも 90 日前までに書面により更新しないことを通知する場合を除き、「IBM SaaS」は、「PoE」に定める期間につき自動更新されます。

継続利用の場合は、「IBM SaaS」は、お客様が 90 日前までに書面により終了を通知するまで、月単位で継続利用することができます。「IBM SaaS」は、かかる 90 日の期間後の暦月末日まで引き続き利用することができます。

5. テクニカル・サポート

「サブスクリプション期間」中および IBM がお客様に対し「IBM SaaS」へアクセスすることができるようになった旨通知した後、「IBM SaaS」のテクニカル・サポートは電話、オンライン・フォーラム、およびオンライン問題報告システムを介して提供されます。IBM がかかるテクニカル・サポートの一環として提供する拡張、更新、およびその他資料は、「IBM SaaS」の一部とみなされ、本「ToU」が適用されるものとします。テクニカル・サポートは「IBM SaaS」に含まれ、別個のオファリングとして提供されるものではありません。

利用可能時間、オンライン問題報告システム、およびその他のテクニカル・サポートに関するご利用方法や手順に関する詳細情報は、IBM Software as a Service (SaaS) Support Handbook に記載されています。

重要度	重要度の定義	目標応答時間	対象応答時間
1	重大な事業影響/サービス・ダウン 事業上の重要な機能が作動不能である、または重要なインターフェースが機能しない状態。これは通常実稼働環境に適用され、サービスにアクセスできないことによって業務に重大な影響が生じることを示します。この状況は、即時に解決する必要があります。	1 時間以内	1 日 24 時間週 7 日
2	著しい事業影響 サービス事業機能またはサービスの機能が著しい使用制限を受けているか、または、お客様が事業の最終期限に間に合わない危険にさらされている状態。	2 営業時間以内	月曜から金曜の営業時間
3	軽度の事業影響 サービスまたは機能を使用することができ、業務に重大な影響がないことを示す。	4 営業時間以内	月曜から金曜の営業時間
4	最小の事業影響 問い合わせまたは非技術的な依頼。	1 営業日以内	月曜から金曜の営業時間

6. 「IBM SaaS」オファリングの追加条件

6.1 個人情報

本「IBM SaaS」は、個人情報またはセンシティブ個人情報などの規制対象コンテンツに関する特定のセキュリティ要件に即して設計されているものではありません。お客様は、お客様が「IBM SaaS」に関連して使用するコンテンツのタイプについて、本「IBM SaaS」がお客様のニーズを満たすものかどうか判断する責任を負います。

6.2 Derived Benefit Locations

該当する場合、お客様が「IBM SaaS」に関する利益を享受しているとお客様が特定する所在地の税金が適用されます。IBM は、お客様が IBM に追加情報を提供する場合を除き、「IBM SaaS」の注文時に主要な Benefit Location として記載した事業所住所に基づいて税金を適用します。お客様は、当該情報を最新状態に保ち、変更があった場合には IBM に通知する責任を負うものとします。

別紙 A

1. データ・ストレージ

200 人以下のユーザーのサブスクリプションを有するお客様は 25 ギガバイトのデータ容量でプロビジョニングされ、200 人を超えるユーザーのサブスクリプションを有するお客様は 50 ギガバイトのデータ容量でプロビジョニングされます。

2. オファリングの説明

2.1 IBM Rational Quality Manager on Cloud

この「IBM SaaS」オファリングは動的なテスト計画、適用されるワークフロー、ラボ効率、テスト範囲分析、手動テスト・オーサリングを提供します。これらのフィーチャーは、その他のライフサイクル成果物（作業項目および要件など）と、ならびにレポート作成機能およびダッシュボードと統合します。それらは詳細で、高度にカスタマイズされた分析を提供して、プロジェクトの正常性と進捗を監視できるようにします。カスタマイズ可能なレポートは、要件、作業項目、ビルド、テスト・ケース、およびテスト結果を含む、ライフサイクル全体にわたる成果物のリアルタイム・ビューと過去のトレンドの両方を提供します。チームのレポートおよびダッシュボードは、お客様がプロジェクトの健全性に関するタブを維持できるようにします。ダッシュボードは作業項目の照会、イベント・フィード、レポート、および進捗を理解するのに欠かせないその他の項目について概要ビューを提供します。

2.2 IBM Team Concert on Cloud

この「IBM SaaS」オファリングは、以下に記載された変更管理、計画立案、ソフトウェア構成管理、および自動化機能を提供します。

a. 変更管理

「変更管理」の主なフィーチャーは作業項目で、ストーリー、障害、計画項目、および通常タスクを追跡したり、調整したりします。作業項目、およびそれらが従うワークフロー・プロセスはお客様のプロジェクトに合うようにカスタマイズ可能です。

b. 計画立案

「計画立案」機能は、全体的なプロジェクトに対して、これらのプロジェクト内のチームに対して、および個々の開発者に対して、計画立案、追跡、ワークロード・バランスを支援するツールを提供します。計画はチームの誰もが利用可能です。また、あらゆる時点でのリリースおよび反復の進捗を示します。

c. ソフトウェア構成管理

コンポーネント・ベースのソース制御システムは、並行開発、アジャイル開発、および地理的に分散されたチームに対して強力なサポートを提供します。これは障害追跡、ビルド、およびプロセス自動化と密に統合します。

d. 自動化

「自動化」機能は、開発チームとテスト・チームにビルド管理制御を提供します。チーム・メンバーはビルドの進捗を追跡し、ビルド・アラートと結果を表示し、ビルドを要求し、ビルドの関係（変更セットや作業項目など）を成果物にトレースします。

2.3 IBM DOORS Next Generation on Cloud

この「IBM SaaS」オファリングは、特に関連する開発作業項目およびテスト成果物に関連した、要件を取り込み、整理し、協力してレビュー、分析、およびレポート作成を実行するツールを提供します。

2.4 IBM Engineering Lifecycle Manager on Cloud

この「IBM SaaS」 オファリングは、IBM Collaborative Lifecycle Management on Cloud オファリングに関連して、IBM IoT Continuous Engineering on Cloud バンドル以外でのみ購入でき、またライフサイクルにわたるエンジニアリング成果物間の関係を視覚化する機能を提供してプロジェクトの効率と製品の完全性の向上促進に関する洞察を引き出します。

2.5 IBM IoT Continuous Engineering on Cloud

この SaaS オファリングには、IBM DOORS Next Generation on Cloud、IBM Rational Quality Manager on Cloud、IBM Team Concert on Cloud、および IBM Engineering Lifecycle Manager on Cloud のための上記の機能と、以下が含まれます。

- ライフサイクル全体からのエンジニアリング情報へのユニバーサル・アクセス。また、IBM DOORS Next Generation on Cloud にわたる主なエンジニアリング・コンピテンシーを可能にします。
- IBM Rhapsody Design Manager on Cloud。IBM Rational Quality Manager on Cloud、および IBM Team Concert on Cloud のツールは以下を実行します。
 - データの保管先や管理先を問わない、関連性のある情報の検索と発見。
 - エンジニアリング・ライフサイクル全体にわたる完全な可視性を持ったエンジニアリング変更に対する理解と変更。
 - 洞察を予測可能な成果に変えるのに役立つ、視覚化機能および分析機能。
 - 開発での再利用可能な製品、システム、サブシステム、およびコンポーネントに従った、ライフサイクル・エンジニアリングの成果物の編成による再使用。
 - モデルや設計を作成、編集、および共有し、設計の成果物をその他のライフサイクル・リソースと統合するためのツール。
 - モデルおよび設計に関して協力して行うレビュー、分析、ならびにレポート。
- カスタマイズ可能なレポートは、要件、作業項目、ビルド、テスト・ケース、およびテスト結果を含む、ライフサイクル全体にわたる成果物のリアルタイム・ビューと過去のトレンドの両方を提供します。
- チームのレポートおよびダッシュボードは、お客様がプロジェクトを監視できるようにします。
- ダッシュボードは作業項目の照会、イベント・フィード、レポート、および進捗を理解するのに欠かせないその他の項目について概要ビューを提供します。

2.6 IBM Collaborative Lifecycle Management on Cloud

この SaaS オファリングには、IBM DOORS Next Generation on Cloud、IBM Rational Quality Manager on Cloud、および IBM Team Concert on Cloud のための上記の機能が含まれます。